

心おちつく癒しと瞑想のコンサート STAY HALL
開催にあたり

現在も依然として続いている、コロナ禍。

多くの人が集まるのが難しくなってしまった社会。

公共ホールは、地域の方にどのようなアプローチで何を届けられるだろうか？

一つの試みとして、コロナ禍で生まれたソーシャルディスタンスという、人との距離を空けるその空間について、改めて考えてみたくなりました。

コンサートホールでは試行錯誤の上、グループ毎に1席空けた配席や、市松模様のように1席毎に空席をもうけるなど、人との距離を保つ工夫を実施してきました。やむを得ない状況で実施した対策だったものの、来場いただいた多くの方から、思いのほか快適だったと好評を得ており、新たな可能性を感じるにいたりました。元々皆様がコロナ前から感じていた、電車や、交通機関、ショッピングセンターやイベントで満員を避けたい気持ちと似ていると感じます。

社会情勢からホールを利用する方が少なくなり、中止や延期の公演も多くございました。本来使うはずだった、誰もいないホールを見ることが多くなり、大きい空間に一人での寂しさや不安、そこで行われたであろう催物を惜しむ思いを感じることも多くあります。ですが、その広い空間がネガティブな思いだけではなく、同時に解放感や新しい可能性に期待できるワクワクした気持ちをもたらしてくれました。閉塞した中でも、空間と彩る音楽が持つ力は、皆様に良い変化をもたらしてくれるはずです。

今回、皆様にこの空間をじっくり味わっていただくためとして、「ホールで眠るくらいリラックスできる」をコンセプトに、特別に定員を通常の10分の1と大きく減らし、お客様同士の距離も左右に3席ずつ十分にとった開放的な指定席をご用意しました。また、選び抜かれた曲目やフルートとハーブの美しい演奏をじっくり堪能し、こちよい音色や解説に情景を思い浮かべ、心安らぐひとときをお楽しみいただけるコンサートとしました。

今までにない、贅沢な空間の使い方を、存分に味わっていただければ幸いです。

裾野市民文化センター